マルチメディア工学

マルチメディアデータの解析 データ表現:主成分分析

佐藤 嘉伸

大阪大学 大学院医学系研究科 放射線統合医学講座

yoshi@image.med.osaka-u.ac.jp http://www.image.med.osaka-u.ac.jp/member/yoshi/

講義ホームページ: 日本語ページ → 授業の資料 → マルチメディアエ学

マルチメディア工学:講義計画

- イントロダクション
- コンピュータグラフィックス (Computer Graphics: CG)
- マルチメディアデータの解析

マルチメディア工学:講義計画

- イントロダクション
- コンピュータグラフィックス (Computer Graphics: **CG**)
- マルチメディアデータの解析
 - 基礎数理
 - 代表的解析手法
 - データ圧縮:離散コサイン変換・JPEG
 - データ表現:主成分分析
 - (データ認識:隠れマルコフモデル)
 - (データ認識:独立成分分析)

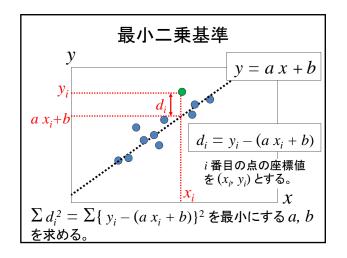
マルチメディアデータの解析

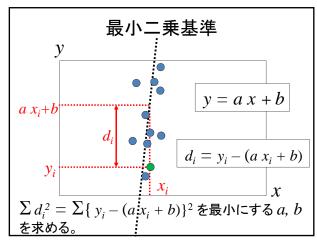
- 基礎数理
 - 最小二乗法
 - 直交変換、直交関数展開
- 代表的解析手法
 - データ圧縮:離散コサイン変換・JPEG
 - データ表現:主成分分析
 - (データ認識: 隠れマルコフモデル)
 - 音声・言語を含む時系列データに対して有効
 - (データ認識:独立成分分析)
 - 音声信号の分離に対して有効

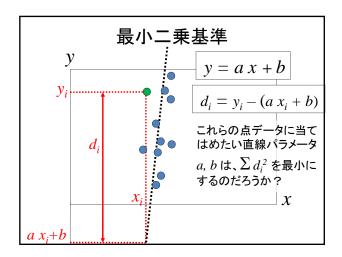
データ表現:主成分分析

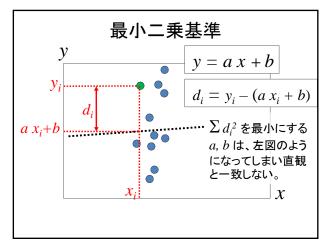
- 主成分分析 (Principal Component Analysis: PCA)
 - 直線当てはめ:再検討
 - 直交変換:再検討
 - 主成分分析の定式化
- マルチメディアデータの主成分分析
 - 正規化
 - 実例(肝臓3次元形状)

直線当てはめ再検討



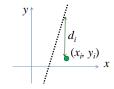


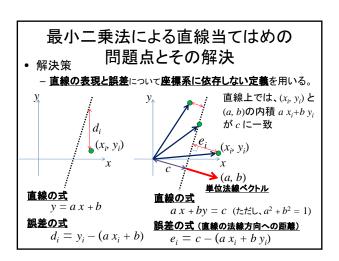


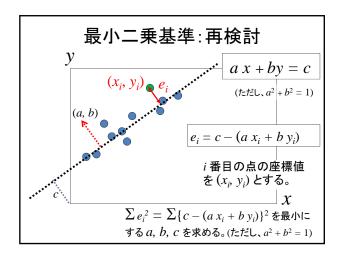


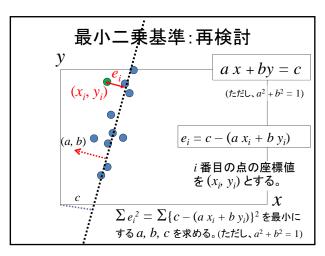
最小二乗法による直線当てはめの 問題点とその解決

- 問題点
 - $\lceil x_i \mid r$ における計測値 y_i が $y = a \mid x_i \mid b$ という真の値に、ガウス 分布に従う誤差 d_i が付加されたものである」という仮定に従 うのではない場合、特に、傾きが大きな場合において、直観 的に妥当と思われる直線当てはめが得られない。









最小二乗基準:再検討

$$\frac{1}{n}\sum_{i=1}^{n}e_{i}=\frac{1}{n}\sum_{i=1}^{n}\{c-(ax_{i}+by_{i})\}^{2}$$
 を最小にする a,b,c を求める。 $(t$ =だし、 $a^{2}+b^{2}=1$) $F(a,b,c)=\frac{1}{n}\sum\{c-(ax_{i}+by_{i})\}^{2}$

$$= \frac{1}{n} \sum \{a^2 x_i^2 + b^2 y_i^2 + c^2 + 2abx_i y_i - 2acx_i - 2bcy_i\}$$

$$= \frac{1}{n} \{a^2 \sum x_i^2 + b^2 \sum y_i^2 + nc^2 + 2ab\sum x_i y_i - 2ac\sum x_i - 2bc\sum y_i\}$$

$$= \frac{1}{n} \{s_{xx} a^2 + s_{yy} b^2 + nc^2 + 2s_{xy} ab - 2s_x ac - 2s_y bc\}$$

$$(s_{xx} = \sum x_i^2, s_{yy} = \sum y_i^2, s_{yy} = \sum x_i y_i, s_x = \sum x_i, s_y = \sum y_i, n = \sum 1)$$

 $G(a,b,c) = a^2 + b^2 - 1$

問題: G(a,b,c) = 0 という条件で F(a,b,c) を最小にする a,b,c を求める。

制約条件付き最小化問題ラグランジュ未定乗数法

制約条件付き最小化問題: G(a,b,c)=0 という条件の下で、F(a,b,c) を最小にするa,b,cを求める。

制約条件無し最小化問題:

 $F(a,b,c) - \lambda G(a,b,c)$ を最小にするa,b,cを求める。

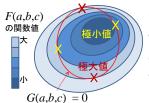
最小化条件: $F(a,b,c) - \lambda G(a,b,c)$ の a,b,c での偏微分が0 $\left(\frac{\partial F}{\partial a} - \lambda \frac{\partial G}{\partial a}, \frac{\partial F}{\partial b} - \lambda \frac{\partial G}{\partial b}, \frac{\partial F}{\partial c} - \lambda \frac{\partial G}{\partial c} \right) = (0,0,0)$

$$\left(\frac{\partial F}{\partial a}, \frac{\partial F}{\partial b}, \frac{\partial F}{\partial c}\right) = \lambda \left(\frac{\partial G}{\partial a}, \frac{\partial G}{\partial b}, \frac{\partial G}{\partial c}\right)$$

制約条件付き最小化問題 ラグランジュ未定乗数法

制約条件付き最小化問題: G(a,b,c)=0 という条件の下で、F(a,b,c)を最小にするa,b,cを求める。

最小化条件:
$$\left(\frac{\partial F}{\partial a}, \frac{\partial F}{\partial b}, \frac{\partial F}{\partial c}\right) = \lambda \left(\frac{\partial G}{\partial a}, \frac{\partial G}{\partial b}, \frac{\partial G}{\partial c}\right)$$
 $(F(a,b,c)$ の勾配ベクトルと $G(a,b,c)$ の勾配ベクトルが平行)



勾配ベクトルは、等値線に垂直

G(a,b,c) = 0 は、その上でF(a,b,c) の極値をとるとき、F(a,b,c) の等値線と接する。

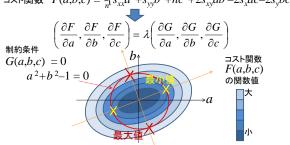
すなわち、極値をとるとき、G(a,b,c)とF(a,b,c)の勾配ベクトルは平行

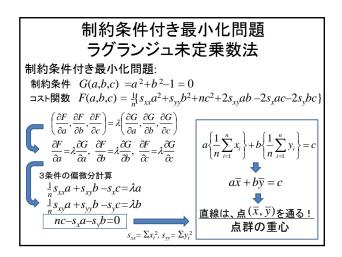
制約条件付き最小化問題 ラグランジュ未定乗数法

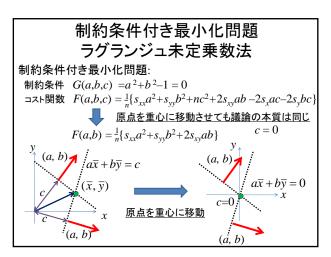
制約条件付き最小化問題:

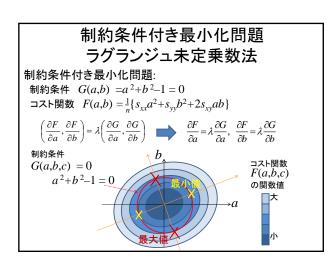
制約条件 $G(a,b,c) = a^2 + b^2 - 1 = 0$

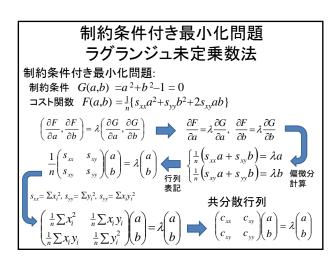
コスト関数 $F(a,b,c) = \frac{1}{n} \{ s_{xx}a^2 + s_{yy}b^2 + nc^2 + 2s_{xy}ab - 2s_xac - 2s_ybc \}$











制約条件付き最小化問題 ラグランジュ未定乗数法

制約条件付き最小化問題:

制約条件 $G(a,b) = a^2 + b^2 - 1 = 0$

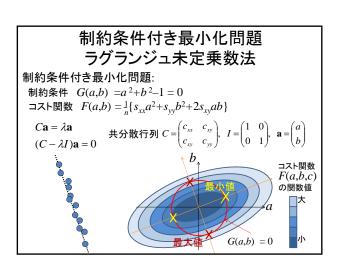
コスト関数 $F(a,b) = \{s_{xx}a^2 + s_{yy}b^2 + 2s_{xy}ab\}$

 $C\mathbf{a} = \lambda \mathbf{a}$

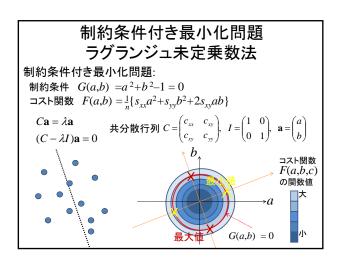
 $(C - \lambda I)\mathbf{a} = 0$

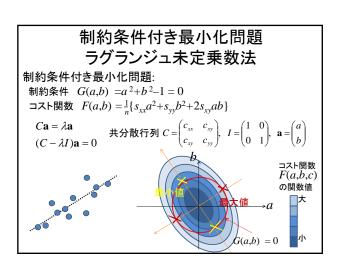
$$C = \begin{pmatrix} c_{xx} & c_{xy} \\ c_{xy} & c_{yy} \end{pmatrix}, \quad I = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{a} = \begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix}$$

直線の単位法線ベクトル $\mathbf{a} = (a,b)$ を求める問題は、共分散行列 C の固有ベクトル \mathbf{a} を求める問題に帰着される。 (共分散行列は対称行列。対称行列の固有ベクトルは直交。)



制約条件付き最小化問題 ラグランジュ未定乗数法 制約条件 $G(a,b) = a^2 + b^2 - 1 = 0$ コスト関数 $F(a,b) = \frac{1}{n} \{ s_{xx}a^2 + s_{yy}b^2 + 2s_{xy}ab \}$ $C\mathbf{a} = \lambda \mathbf{a}$ $(C - \lambda I)\mathbf{a} = 0$ 共分散行列 $C = \begin{pmatrix} c_{xx} & c_{xy} \\ c_{xy} & c_{yy} \end{pmatrix}, I = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}, \mathbf{a} = \begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix}$





直線当てはめ:まとめ

- 点群への直線当てはめにおいて、点と直線の誤差を、 直線の法線方向にとる場合:
 - 直線は点群の重心を通る。
 - 直線の単位法線ベクトル $\mathbf{a} = (a,b)$ を求める問題は、共分散行列 C の固有ベクトル \mathbf{a} を求める問題に帰着される。

$$C \mathbf{a} = \lambda \mathbf{a}$$

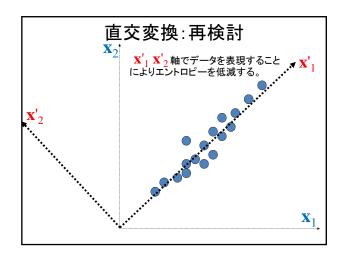
$$(C - \lambda I)\mathbf{a} = 0$$

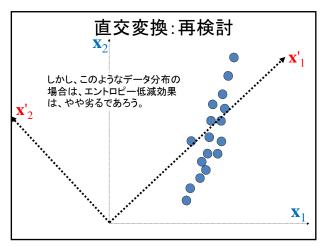
$$C = \begin{pmatrix} c_{xx} & c_{xy} \\ c_{xy} & c_{yy} \end{pmatrix}, \quad I = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{a} = \begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix}$$

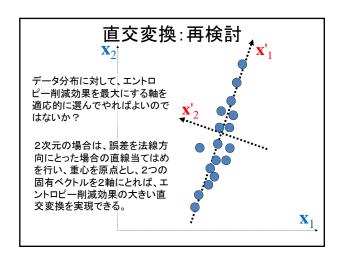
演習問題 10-A

- 2つの固有ベクトルが得られるが、直線の法線に対応する固有ベクトルは、最小固有値 λ_{min} に対応する固有ベクトルである。
 - 1. 最小固有値 λ_{min} は、どのような値になるか? 最小固有値に対応する固有ベクトル(直線の法線方向) (a,b)を、点群の座標値 (x_i,y_i) , i=1,2,....,n を用いて表現せよ。これは、どのような量を表していると言えるか?
 - 2. 同様に、最大固有値 λ_{max} は、どのような値になるか? これはどのような量を表していると言えるか?

直交変換 再検討

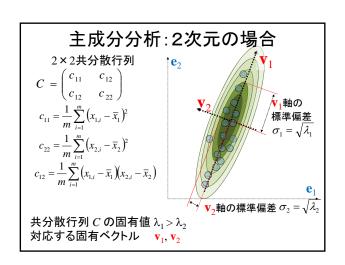


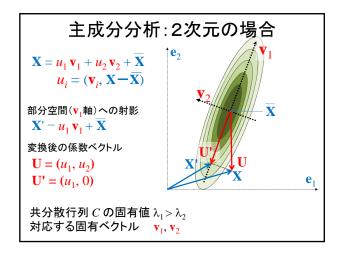


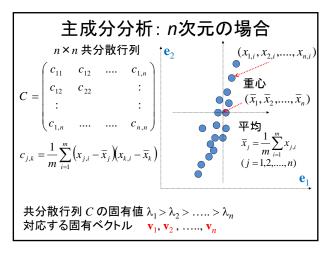


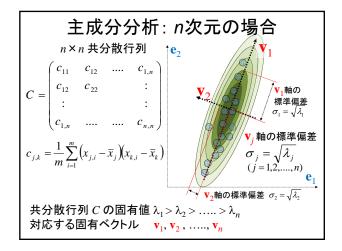
主成分分析の定式化

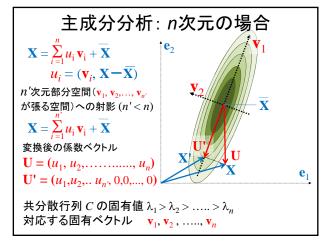
直交変換の一種である KL (Karhunen-Loéve) 変換と等価











演習問題 10-B

n 変数の主成分分析により得られた固有値 $\lambda_1 > \lambda_2 >$ > λ_n に対して、各成分の寄与率、累積寄与率が以下のように定義される。(ただし、n > n')

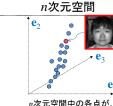
$$n'$$
番目の成分の寄与率 $\dfrac{\lambda_{n'}}{\displaystyle\sum_{i=1}^n \lambda_i}$ $\sum_{i=1}^{n'} \lambda_i$ $\sum_{i=1}^{n'} \lambda_i$ $\sum_{i=1}^n \lambda_i$ これらはどのように利用できるか考えよ。

マルチメディアデータの 主成分分析

画像・形状データへの 主成分分析の応用

- 顔画像·形状
- 人体形状(体型・足形や人体内部の骨格・臓 器なども含む)

生物(魚、植物)の形状



The Yale Face Database B http://cvc.yale.edu/projects/yalefacesB/yalefacesB.html

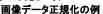
各顔画像に対応する。

画像・形状データの 主成分分析の目的

- データ圧縮
 - 特定のデータ集合(例えば、顔正面画像)に対して、データ圧 縮効果の最も高い直交変換を行える。
- データ認識
 - データ間の比較を行う際、少数の重要な軸の値のみで比較 することにより、認識効率・精度を高める。
- データ復元
 - 一部が欠落しているデータ、解像度が悪いデータなどから、 高解像度の原データ復元を行う。
- 個体群データ解析
 - 例えば、人種、性別などにより分類した2つのデータ集合を別 々に主成分分析することにより、平均および分布の違いを定 量的に比較する。

画像・形状データ(特に形状データ)の 主成分分析における問題点:正規化

- 画像・形状データの正規化
 - 画像・形状データをベクトル化した際の各成分の値は、(でき るだけ)同じ意味をもつ値になるよう、データの補正を行う。
- 画像(各要素に輝度値が格納された2次元配列)の場合
 - 顔の撮影領域、顔の向き、照明条件、背景、眼鏡の有無など について、条件をそろえることが望ましい(しかし、すべての条 件をそろえるのは難しい。)





赤矢印の位置と長さが画像中の同じ位置にくるよう。各画像の位置、向き、ス ールを補正する。(多くのデータベースでは撮影段階で必要な正規化を行っている。)

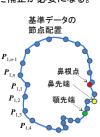
画像・形状データ(特に形状データ)の 主成分分析における問題点:正規化

- 形状(2次元輪郭、3次元表面)データの場合
 - 輪郭(表面)が存在する2次元(3次元)空間中の位置、向き の補正に加えて、輪郭(表面)に沿った補正が必要になる。



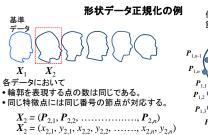
•同じ特徴点には同じ番号の節点が対応する。

 $X_1 = (P_{1,1}, P_{1,2}, \dots, P_{1,n})$ $X_1 = (x_{1,1}, y_{1,1}, x_{1,2}, y_{1,2}, \dots, x_{1,n}, y_{1,n})$ 元ベクトル(n 節点の2次元形状)

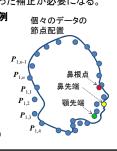


画像・形状データ(特に形状データ)の 主成分分析における問題点:正規化

- 形状(2次元輪郭、3次元表面)データの場合
 - 輪郭(表面)が存在する2次元(3次元)空間中の位置、向き の補正に加えて、輪郭(表面)に沿った補正が必要になる。

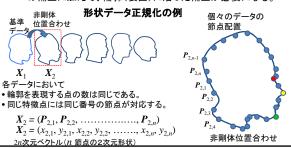


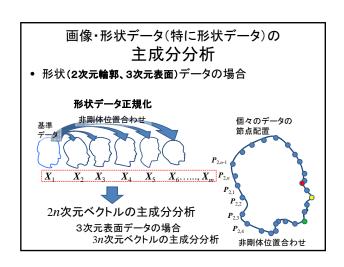
2n次元ベクトル(n 節点の2次元形状)

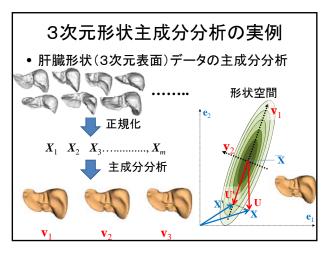


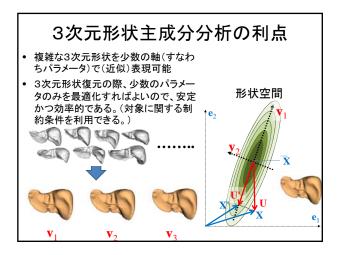
画像・形状データ(特に形状データ)の 主成分分析における問題点:正規化

- 形状(2次元輪郭、3次元表面)データの場合
 - 輪郭(表面)が存在する2次元(3次元)空間中の位置、向き の補正に加えて、輪郭(表面)に沿った補正が必要になる。









マルチメディアデータの 主成分分析:まとめ

- 画像・形状(その他、マルチメディア)データ集合が与えられ、それらに対して主成分分析することにより、 圧縮効果の最も高い直交変換を得ることができる。
- 画像・形状データを、主成分分析に入力する固定次元のベクトルデータに変換する際、適切な正規化を行うことがポイントになる。
- 主成分分析により、少数のパラメータで画像・形状を表現でき、データ復元・認識において、効率と安定性が向上する。